

あつという間に十二月になってしまいました。
カシミアが活躍する季節ですね。

世の中は省力化、無人化でどんどん便利になっているモノ作りですが、一部の編立を除き、ほとんど人手頼みのカシミアニット作りです。その人手をかけている分がカシミアの暖かさに加味されていると思います。

和食の世界文化遺産の認定をはじめ、海外からの来日旅行者の増加など、日本を評価する外国人に押されるようにして、やっと日本の物作りも評価されるようになってきました。

これからも、カシミアニットという暖かさの御馳走を提供したいと思えます。



スジゴロカバマダラ

【北上市ふるさと納税が好調】

北上市の特産として取り上げていただいた当社のカシミアニットが好調です。

当社としては嬉しい限りですが、北上市も潤っているし、納税者も温かいカシミアニットが届いてよ喜んでる。こんな三方得はなかなかありません。

クリスマスプレゼント用のラッピングもご用意しています。

是非、皆さんもご検討ください。

【工場見学・体験ツアーを開催しました】

繁忙期の現在、休日の土曜日に岩手県北上の当社工場で開催しました。

参加者の八割は関東圏からでしたが、南は熊本、北は北海道の釧路から北上に来て下さいました。大勢ということで北上市からバスを出して頂き、さらにホールまで案内して頂きました。

実際に使っていたいるお客様と、作り手の出合いは、お互いの絆を確認した素晴らしい時間でした。

【こんにちわ 小比賀です】

12月に入りとても寒い毎日ですが皆様体調はいかがでしょうか。当社ではオーダーをいただいているカシミア製品の生産真っ只中です。



北上で越冬の白鳥

そんな忙しいさなか、私自身最近はこの長時間のデスクワークのせいなのか寒さのせいなのか、肩こりや目の乾燥などいつもとは違う体調が気になり始めました。そんな症状が出てきたときは冷え解消のために暖かい飲み物を積極的にとる、少し休憩の時間をとり肩のストレッチを行う、首元が冷えないようにマフラーを巻いたりなどして体調がひどくならないように気を付けています。

また、普段の生活の中でもいつも以上にきっちり睡眠をとったり、フランスのとれた食生活をとるなどより一層心がけています。日々の生活を大事にしてこの冬は風邪を引かずに乗り越えたいと思います。年末年始に向けての行事や仕事で忙しくなる方も多いと思えます。皆様もこの季節お体ご自愛くださいませ。

【青山・表参道界隈】
懐かしの星条旗通り

東京の港区にもある米軍基地に複雑な思い

東京ミッドタウンの辺りは、以前十年ぐらいつた会社があった旧地元です。現在ミッドタウンのある場所は、以前は防衛庁でした。ずっと昔の江戸時代は、長州藩の中屋敷だったそうです。

ミッドタウンの前の外苑東通りから入ってすぐ右側に電土軒跡の標識があります。電土軒は東京で最古の洋食店の電土軒というレストランがあったところで、国木田独歩、島崎藤村、尾崎紅葉、柳田国男、田山花袋などの文人達が集まったところだそうです。昔は文人たちが流行の牽引車だったんですね。

電土町の先が2008年1月にオープンした国立新美術館で、ここは以前は東大生産技術研究所でした。

前を通るとき、『こんなところに東大があるんだ、どんなことをやっているんだろう』と思っていました。もちろん中には入ったことはありませんが、『ビル設計設計会社に勤める友人のお兄さんが『ビル設計設計のときの強度計算などで何回も行ったことがあるよ』というので、『ま、そんなところなんだあ』と一人納得していました。

その東大が出来る前、明治時代は陸軍第三連隊だったそうです。といってもびんときませんがこの兵士は歴史の時間に出てくる西南の役にも出征し、2・26事件の首謀者だった若手将校達が所属していたことから出て行つてあの事件を起こした。

最近あまり注目されていませんが、この辺りから西麻布の外苑西通り辺りまではゆるい下り坂で、スターズ アンド ストリプス。いわゆる星条旗通りといわれる通りです。

最近あまり注目されていませんが、この辺りから西麻布の外苑西通り辺りまではゆるい下り坂で、スターズ アンド ストリプス。いわゆる星条旗通りといわれる通りです。東京の港区にある米軍基地です。コソファイヤーネットネットワークというフジ放送を発信していたところ。港区の地図には星条旗新聞と記されています。正式には赤坂ブレスセンターといって約一万坪の敷地にはヘリポートもあります。時々こんなところにヘリコプターが下りてきてびっくりすることがあります。

旅行屋になりたての1970年頃は沖繩が日本に返還される前で、沖繩に行くにはビザを取らなければならなくて、お客様はビザをもらう為に何回も通った道でした。当時は虎ノ門から六本木の俳優座の前までバスで来て、そこから歩きしかなく、かなり時間がかかりました。

1980年頃はこの通りの中ほどにポルトハウスというお店があってニュートラフームの火付け役として大変な人気を通りでした。



カシミア100% ネックウォーマー

無地・1212-3194 ¥5,184 税込
ホーダー・1212-3187 ¥6,264 税込



まるでタートルネックセーターを着ているみたいに、どんなマフラーにも負けない温かさ、でも、ウールの宝石・カシミア100%だからチクチクしないし、暑くなったら一瞬で外せる便利さです。このネックウォーマーひとつで一枚余分に着込んだのと同じ温かさです。*プレゼントにも最適*赤ちゃんの腹巻にもできます

カシミア100% チュニック丈ホーダー・プルオーバー

1112-1127 ¥59,400 税込



カシミア100%ながらも、チュニック丈のゆったり感と、マリン風なホーダーのカジュアルさが贅沢感満載です。ネックラインも比較的ゆったり、カシミア3頭分のうぶ毛をお楽しみください。

カシミア100%メンズ 配色Vネック・プルオーバー

1213-1171 ¥59,400 税込



ネクタイをしない設定で小さなVネックの開きが特徴です。ありそうで無い袖口と裾が袋編み出しです。リブ編みには無いスツキリ感がとてもお洒落です。袖、袖口、裾の裏に配色が可能で、貴方だけのお洒落を楽しんでください。

カシミヤとニットの話 (49)



カシミヤ工場見学・体験ツアー実施



セーター作りって、こんなに大変なんだ！ カシミヤって、知れば知るほど素敵で愛着が湧いてくるねぇ！

お客様と作り手の出会いで、新たな絆が出来てきたのが一番の成果かもしれない



珍しい下戸の話



最初の人類といわれる、ピテカントロプス・エレクトスはジャワ原人。北京原人はホモ・エレクトス・ベキネンシス、等々。人類起源の諸説は色々あるそうですが、サケ・ノメントロプス・ケコネンシスを知っていますか？ 『聞いたことない』。そうでしょうね、僕が作った言葉です。

この人種は酒をはじめとするアルコールを分解する酵素を持っていない、世界でもアジア人種の一部の珍しい人種だそうです。

特異体質というか、アルコールが体内に入ると心臓がドクドクし、頭がガンガンします。世界中で愛飲されている飲み物を飲めないという諦めがあり、自分自身で納得しています。これまでの人生で酒にまつわる数々のエピソードがあります。

結婚して初めてのお正月に、カミさんの実家でお猪口一杯のお屠蘇を飲んで寝てしまった頃に、医者でお酒大好きな義父が私に聴診器を当てながら『学術的にも珍しいよ』と言いながらがっかりしていました。

義父は娘の夫を相手に飲めることを大いに期待していたようですが、これだけはどうしようもありません。危険なことでは医者である義父が一番知っていました。

添乗員をやっていた1970年代、ヨーロッパへはアラスカのアンカレッチ経由の便がメインでした。日本航空はヨーロッパからの帰りの便にサービスとして日本の味のお蕎麦をアンカレッチ・東京間で出していたことも好評でした。

20名ぐらいのグループでパリからアンカレッチ経由で帰ったフライトで、そのお蕎麦が出てきました。みんな久しぶりの日本の味に大喜びでした。もちろん私も食べましたが、しばらくすると頭が熱くなり、心臓がドクドクします。『あ、これはお酒が入っていたな』と気づきましたが、なんと全く眠くなり、寝てしまいました。

周りにいたツアーのメンバーが赤い顔で寝ている様子を見て、『宇土さんは具合が悪そうだ』と心配してくれてスチュワーデスと呼んだそうです。彼女も驚いて、すぐに機内アナウンスで『機内にドクターはいらっしゃいませんか？』とやってくれたそうです。

肩を叩かれて目が覚めたら、男の人が、『大丈夫ですか？』と聞くので私は、『はあ？』という感じでした。

たまに、機内で急病の人が出て、『ドクターいらっしゃいますか？』というアナウンスに、お出ましになる人に『かわいいいな！』と思うことはよくあったんですが、自分がその患者になるとは思いもよらない経験でした。

結局、なんてことはない、おっつんに入っている味噌のアルコールが飛んでいなかっただけの話でしたが、『味噌で反応するなんて』と、呆れられたり感心されたりした経験でした。

世界のホテルを旅する(四十九)
元 旅行屋のお勧め ロンドン・英国
ホテル ラッセルスクエア

名前の通り、ラッセルスクエアという公園に面して建てられたホテルです。ここは大英博物館やロンドン大学にも近く、ロンドン市内を観光するにはとても便利な処です。

石造りの英国の伝統的な建物で、40年前始めて訪れたヨーロッパ、初めてのロンドンで、『ヨーロッパの伝統的な建物はこういうものだ』と、基本を教えられた懐かしいホテルです。

ホテルに入ったときにまず感じたのが『暗い』という感覚でした。その後のヨーロッパの建物にも感じましたが、『日本らしい蛍光灯に慣れていた日本人にはうす暗く、その暗さが独特の重厚感と雰囲気を作り出していることを知りました。』

人によって違うでしょうが、私はロンドンで印象深いのは公園の素晴らしさです。ハイドパークやリーセントパークなどの大きな公園の素晴らしさはもちろんですが、このラッセルスクエアのような街中であって、建物に囲われた四角いスクエアと呼ばれる素敵な公園が沢山あります。

手入れの行き届いた緑の芝生があって、花壇には花が咲き、ベンチがあって、大きな楡の樹やカエデの樹が日陰を作っているスクエアという街中公園に、英国の豊かさや文化の高さを実感します。

ホテルのすぐ近くに同名の地下鉄の駅があります。かなり深い駅で木製のエスカレーターがたがたと動いていました。そんなに広い幅の階段ではないので両手でベルトをつかんで真中に立っていました。肩を叩かれて、振り向くと怖そうなお顔の叔父さんが左に寄れと言います。

『ああ、急ぐ人の為に右を空けるんだ』と気づきました。今では日本でも常識ですが、40年前はとても新鮮な驚きでした。



『ロンドンに行く機会があったら』、紳士の国ならステツキになるような細い傘を欲しいと長年思っていました。田舎のお上りさんよろしく、リーセントストリートの素敵な店で念願の傘を買いました。一流店で買い物をすることも念願の一つでしたから、長年の念願がかなった喜びでいっぱいでした。

一万円ぐらいの出費でした。当時私の給料が6万円ぐらいだったのでかなりの出費でした。しかし、この傘をロンドンの空港で置き忘れてしまったんです。結局、一回も使わずに長年の夢はあえなく消えました。それ以来ほとんどお土産は買わなくなりました。苦い経験です。

でも、その時の販売の紳士のことを今でも思い出します。私の父親ぐらいの年配者で、とても丁寧で、それでいて威厳があり、きちんと対応してくれた姿勢に感心しました。まさに販売のプロだと思いました。